

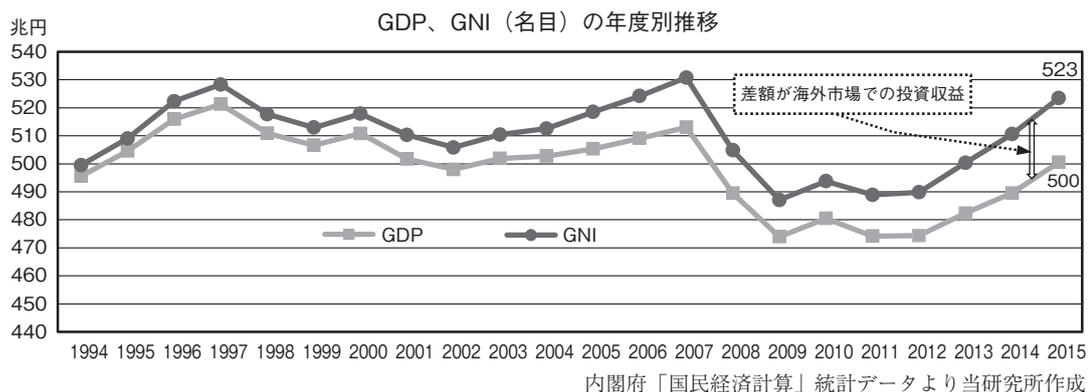
「GDP と GNI」

国全体の経済活動の規模を測る指標として、「GDP」が一般的ですが、最近では「GNI」という指標も注目されているようです。

1. 日本の基準経済指標について

1980年代ごろまで、日本全体の経済活動を測る指標として、国民すべてが一定期間の間に生み出した財・サービス（国外での生産分を含む）の合計額である「GNP（Gross National Product: 国民総生産）」が使われていましたが、海外で得た所得を算入する GNP は国内の景気状況を十分に把握できない部分もありました。そのため国民経済計算に国連の定める国際基準が導入され、国内で一定期間に生み出された付加価値の総額である GDP（Gross Domestic Product: 国内総生産）が基準指標となりました。

「GNI（Gross National Income: 国民総所得）は、GDP に海外市場での投資収益を加えたものです。これは所得に着目した指標ですが、金額は GNP と等しくなります。グローバル化の加速により、国外で活動する企業が増大、また、海外への投資も急増し、海外での収益は莫大なものとなっています。一方、国内は少子高齢化・人口減少が進み、GDP をベースとした高い経済成長は厳しい情勢となっています。そのため、GDP と GNI の差が拡大傾向にあり、実態に即した国の豊かさを示す指標として GNI が注目されてきています。



2. アベノミクスでは「10年後の GNI を150万円以上拡大させる」が目標！

安倍政権の成長戦略では、「10年後の1人あたり GNI を150万円以上増加させる」という目標を掲げています。一見すると、「10年後に自分の所得が150万円増える！」と考えがちです。しかし GNI には企業など個人以外の所得を含みます。単純に個人の所得が150万円増加することを意味しているわけではないので注意が必要です。

閑話ひとつ

- ▶ いつも「福島の進路」を「閑話ひとつ」から読んでおられる読者のみなさま。また、記事を一通り読み終え、最後に辿り着いたみなさま。あけましておめでとうございます。
- ▶ さて、今年の干支は丁酉（ひのととり）です。十干と十二支の組み合わせでは60年に一度で前は1957年でした。この年は旧ソ連が人類初の人工衛星の打ち上げに成功。アメリカは大慌てとなり、いわゆるスプートニクショックが起きました。イギリスではビートルズが結成され、日本では東海村の日本原子力研究所で初の核分裂臨界実験に成功しています。振り返れば節目の年とも言えるかもしれません。
- ▶ 陰陽五行説では丁は火を酉は金を意味し、火は金を溶かすので相剋と言われる陰の関係となり、どちらかと言えば矛盾した組み合わせです。

しかし、考えてみれば元々世の中は矛盾の固まりです。矛盾を克服しブレイク・スルーを起こせば、今年も飛躍の年になるかもしれません。いや、そうなることを信じ、みなさまのご発展をお祈りいたします。今年も「福島の進路」をよろしく願いいたします。

(M.W)